

三菱みらい育成財団 研究レポート2023
「心のエンジンが駆動するとき」
～助成事業を通じた分析ならびに提言～
概要版

2023年6月
一般財団法人 三菱みらい育成財団
三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

■三菱みらい育成財団 事業概要

□財団の設立目的・使命

- 三菱グループ創業150周年となる2020年に向け、「日本を支え発展させる次世代人材の育成」を掲げ、2019年10月に設立。
- 正解のない課題、これまでの既成概念では対応できないような課題が山積する激動の時代に立ち向かっていく、「VUCAの時代を生き抜き未来を切り拓く次世代人材」を育成することを使命とし、新しい民間の財団だからこそできる新たな視点、イノベティブな視点で、日本の教育を変えることを大目標としている。

□事業に向けた問題意識

- Well-Beingの実現に向けた大変革期を迎える時代背景
- 未来を切り開く人材に求められるもの
- 日本の危機を打開する教育改革の必要性

□助成事業の概要

<ターゲット>

- 高校生を中心とする15～20歳の若者の教育

<活動期間・事業規模>

- 活動期間を10年と区切り、総事業費は100億円

<10年後の目標・ゴール>

- 基礎的な知識やリテラシーをベースに、自分の目で見、自分の頭で考えて、総合的にソリューションを生み出す力を育むような教育が、すべての学びの中に組み込まれていることを実現すること

<助成プログラムとしての特徴>

- 民間の助成プログラムとして、活動の自由度が高く、助成資金の使い勝手がよい（資金の使い道は、できるだけ助成先の自主性に任せる）
- 事務局が現場に足を運んで実地調査を行い、現場とのコミュニケーションを密にして、現場の声を仕組みの中に柔軟に取り入れている

<プログラムの体系・全体像>

- 1)心のエンジンを駆動させるプログラム【カテゴリ1、2】(2020年度～)
- 2)先端・異能発掘・育成プログラム【カテゴリ3】(2020年度～)
- 3)21世紀型教養教育プログラム【カテゴリ4】(2021年度～)
- 4)教員養成・指導者育成プログラム【カテゴリ5】(2021年度～)
- 5)プラットフォームづくり(2021年度～)

◆心のエンジンを駆動させるプログラム（カテゴリ1、2）

「生徒が自ら主体的に考え、動く」ための教育プログラムに向けた支援として、「心のエンジンを駆動させるプログラム」による「探究学習」の支援を行っている。

①カテゴリ1 高等学校などが学校現場で実施する「心のエンジンを駆動させるプログラム」

総合的な探究の時間や教科等、教育課程の一環として、原則として、学年の生徒全員を対象として行うものに対して助成。

- 助成対象者： 高等学校・高等専門学校・特別支援学校等
 プログラム参加者： 高校生等（15～18歳）
 助成期間： 1年間（原則3カ年まで継続助成）
 助成額： 1校当たり年間100～200万円程度

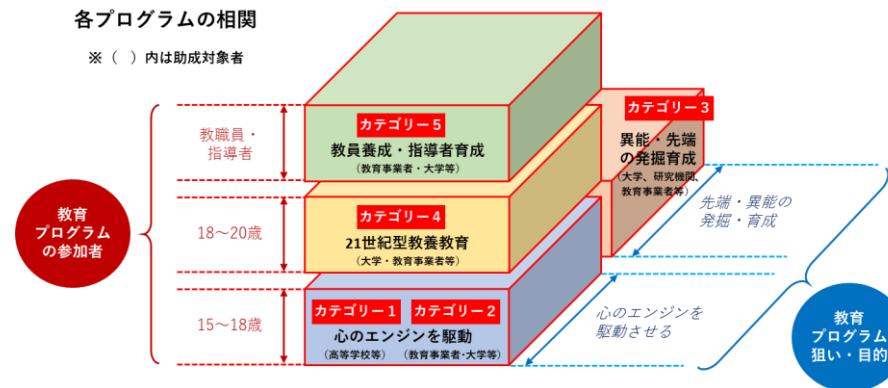
②カテゴリ2 より先進的、特徴的、効果的な「心のエンジンを駆動させるプログラム」

学校外または学校内で一定期間継続的に行われるプログラム、または、広く参加者を募り、成果を競い合うプログラムに対して助成。

- 助成対象者： NPO・株式会社・大学等の教育事業者
 プログラム参加者： 高校生等（15～18歳）
 助成期間： 1年間（原則3カ年まで継続助成）
 助成額： 年間500～1,000万円程度

各プログラムの相関

※（ ）内は助成対象者



三菱みらい育成財団 研究レポート2023 「心のエンジンが駆動するとき」 ～助成事業を通じた分析ならびに提言～ 概要版

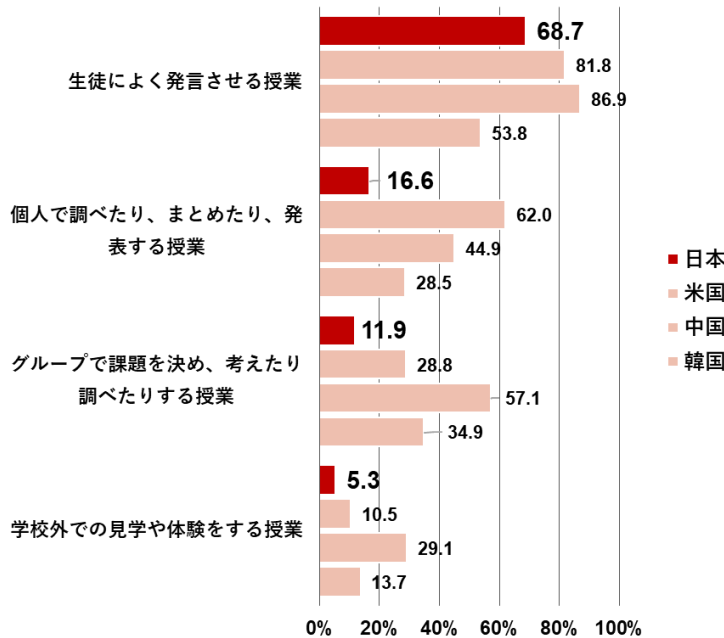
■ 高校生の教育を取り巻く現状と課題

○ 他国と比較して突出して低い高校生の自己肯定感

	自分には人に 勝れる個性がある	自分は他人から 必要とされている	自分は責任がある 社会の一員だと思う	自分の行動で、国や社会を 変えられると思う
日本	47.9 6位	52.7 6位	48.4 6位	26.9 6位
アメリカ	74.0	67.7	77.1	58.5
イギリス	72.2	64.6	79.9	50.6
中国	74.2	77.3 1位	77.1	70.9
韓国	68.9	73.7	65.7	61.5
インド	84.0 1位	59.6	82.8 1位	78.9 1位

資料) 日本財団「18歳意識調査「第46回国や社会に対する意識(6カ国調査)」報告書」(2022年3月)より一部抜粋し作成。

○ 受身の授業が多く、体験学習やグループ学習が少ない



資料) 国立青少年教育振興機構「高校生の勉強と生活に関する意識調査報告書」(2017年3月)より作成

■ 「心のエンジンを駆動させるプログラム」の構造化

○ 助成から見えてきた心のエンジン駆動の姿 (=「普通な子」の目が輝きだす)

- 探究型学習で、自分の興味・関心事項である「ベジタリアン」をテーマに探究。高校生ならではの悩み事(友達と食事する際など、日常の困りごと等)を端緒に、日本にいるベジタリアンの外国人の困りごとにテーマを拡張。(興味・関心から心のエンジンが着火)
- 災害被災地へのフィールドワークが、「どうしたらこうした人たちを助けることができるのか」を真剣に考えるきっかけになり、そこから教育分野に興味を持つに至った。(行動・実践から心のエンジンが着火)
- 町の「落書き」を研究していた生徒。教員からは、イラスト好きではあるが学業不振と見えていたが、丹念に探究する姿から「この子は将来何かするかも」と一目置くような雰囲気変わった。それに伴い、生徒もさらに自信をもって探究を深めていった。(納得・承認による心のエンジンの持続)

現場の実践や生徒の姿から、「心のエンジン駆動」の構造を仮説化

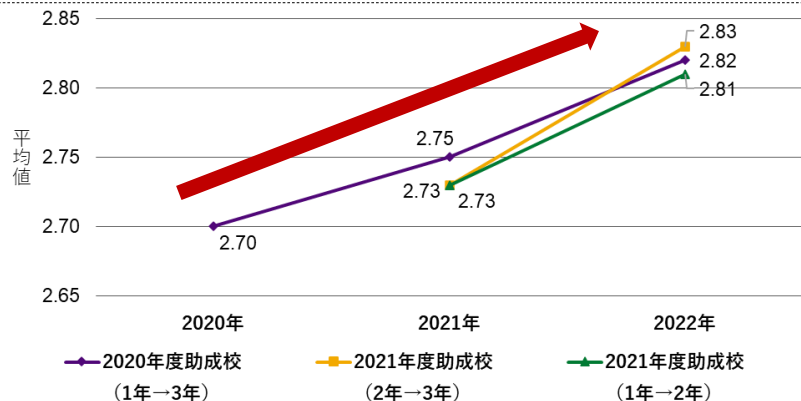


■定量的にプログラムの効果を検証

- ・2020年～2022年にかけて、カテゴリー1の助成校生徒に対し継続的にアンケートを実施。
- ・「心のエンジンの駆動」に関する生徒の意識や学校の取組みを指標化し、数値の伸びを検証。

○「自己肯定感」の一貫した伸び

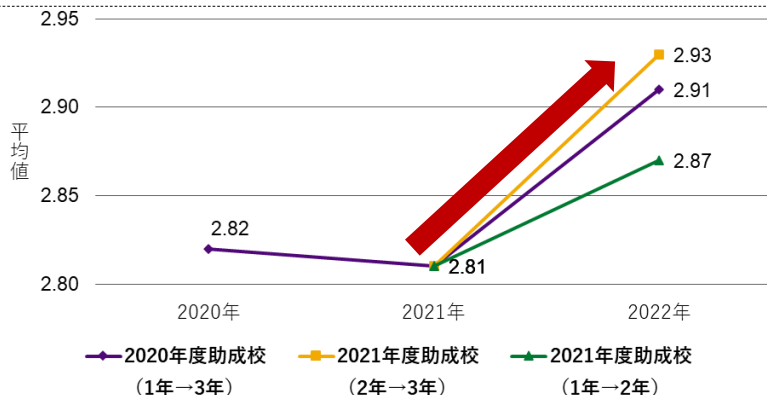
「自分にはよいところがあると思う」「私は自分自身に満足している」を合わせた「自己肯定感」の指標が、助成期間中継続的に向上。



資料) 三菱みらい育成財団・MURC作成。

○生徒の「興味・関心」「行動・実践」は2021年→2022年にかけて上昇

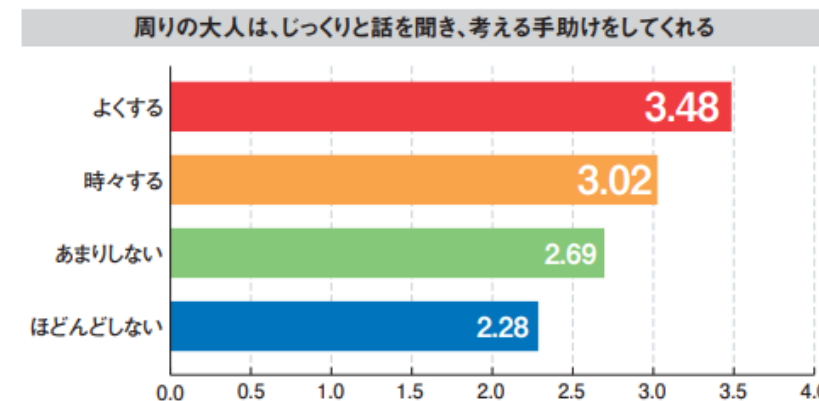
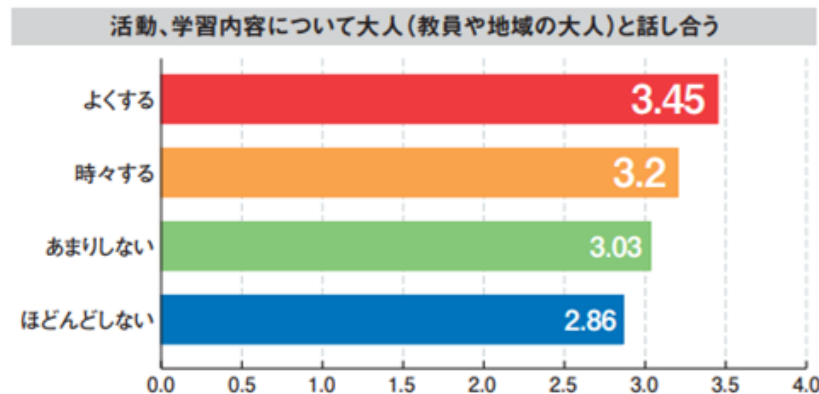
心のエンジンの着火点となる「興味・関心」「行動・実践」の各指標は、2021年から2022年にかけて上昇 = 新型コロナウイルスの影響の弱化により正常に活動が実施できるようになったこと等による変化か



※図表は生徒の「興味・関心」の高まりを示す指標の平均値の伸び。「行動・実践」も同様の傾向
資料) 三菱みらい育成財団・MURC作成。

○納得・承認の風土が「心のエンジン」を駆動する

活動を大人（教員や地域の大人）と話し合ったり、大人が伴走的に関わるなど、生徒が「納得・承認」を得る機会が豊かであるほど、生徒の「心のエンジンの駆動」（自己肯定感含む）が促進



※数値は、自己肯定感等を含む、「心のエンジンの駆動」による生徒の意識変化を示す複数指標の平均値（最小1～最大4）。

資料) 三菱みらい育成財団・MURC作成。

■定性的にプログラムの効果や取組を把握

- ・ 定量的検証で着目した指標に対して特徴的な伸びを示した10校を対象にヒアリングを実施。
- ・ 生徒の心のエンジンの駆動を促す学校での取組みの工夫等について検証。

【心のエンジンの「着火」のポイント（興味・関心、行動・実践）】

① 心のエンジン駆動を偶発的に刺激する様々なプログラム

- ・ 実践例) 生徒が何らかのプロジェクトに参画できる機会、必要なタイミングで必要な材料を提供できる機会を多く設定している。



② 「本気の大人」や社会課題の「現場」と出会える機会

- ・ 実践例) 普通ではできない経験を通して、生徒に「こんな世界があるんだ」と気づいてもらう。



③ 教科学習や進路指導も含めた全面的な探究化

- ・ 実践例) 教科学習に探究的な要素を増やすこと、修学旅行や課外活動にも探究の要素を組み込むことを意識している。



【心のエンジンの「持続」のポイント（納得・承認）】

④ 探究的な学びのための土壌づくり

- ・ 実践例) 入学後すぐ対話の土壌を作るためのワークショップに力を入れる。自分の興味・関心を否定されないという雰囲気が中学までの自身の「レッテル」からの解放に寄与している。



⑤ 教員が「教える・指導する」ことを手放す

- ・ 実践例) 生徒が言うことをまずは聴き入れる。教師が基本的に指示をしない。学校全体に生徒の自主性を受け入れる雰囲気を醸成。



⑥ 学年を越えて学びあう仕組みづくり

- ・ 実践例) 各学年の探究的学習の時間を同じ時間にしていることで、自身のやりたいテーマに近い探究をやっている上級生にすぐに質問に行ける。

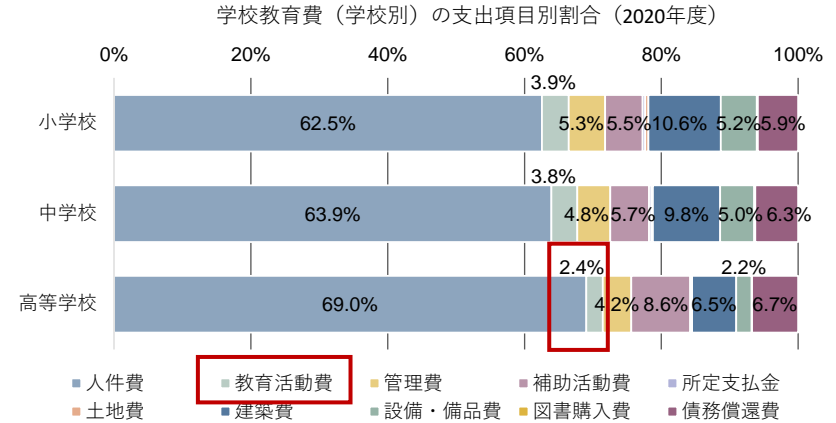


■15～20歳の若者の教育に係る提言

- ・本提言は、助成事業を行い、現場に足を運び、プラットフォーム事業を通して実際に現場の声を聞くことで課題と認識した点を整理
- ・公教育を担う行政や学校だけでなく、教育事業者や民間企業、そして保護者を含む世論等も含めたマルチステークホルダーに対し提言

1. 高校世代の教育に対する、資金面を含むリソース投入の充実

- ・今後の日本社会の行方を左右する人材の育成に直結する「教育」の重要性を踏まえ、高校世代の教育への資金提供を何としても進めていく必要がある。
- ・高校に対する予算充実の際、学校や地域ごとの創意工夫を促す教育プログラムを推進するための**教育活動費の拡充**が求められる。社会と連携しながら充実した探究型学習を推進するための原資が**現場に行き渡る**ことが重要である。
- ・公的機関だけでなく、企業や民間助成団体等あらゆる主体においても、高校向けの教育プログラム等に対する資金を含むリソース提供を一層進めるべき。
- ・広く社会（保護者含む）においても高校の教育プログラムに興味・関心を持ち、リソース投入の充実に関する世論の形成が求められる。



2. 「心のエンジンの駆動」に関するグッドプラクティスの再現・横展開

(1) 高校等における体制づくり

- ・ 探究的学習を校内で推進する体制づくり、熱意を共有するチームの組成
- ・ 学校管理職のリーダーシップ、教員文化づくり

(2) 「心のエンジンの駆動」に寄り添う効果的な財政支援

- ・ 柔軟な（使途の自由度が高く修正可能で、時間的余裕のある）財政支援の充実
- ・ 高校に対する、伴走的で「顔の見える」支援
- ・ 民間の柔軟なスキームにより成果が出た取組みを横展開する行政予算の充実

(3) 学校外の重層的なプログラムの充実

- ・ 学校で実施が難しい革新的、実験的プログラムの一層の充実
- ・ 多種多様な教育プログラムへの支援の充実
- ・ 高校と学校外教育プログラムとの連携深化
- ・ 学校外教育プログラムへの生徒の参加を積極的に後押し

(4) セクターを跨いだ交流機会の創出

- ・ プラットフォームを創出し、セクターを跨いだ交流・連携を充実
- ・ 教員自らも越境して学びながら、ネットワークの活用を
- ・ プラットフォーム創出者自体もその一員としてオープンイノベーションを促進

3. 高校での「心のエンジンの駆動」を加速するための基盤的環境の整備

(1)教員の働き方改革の推進

- 外部リソースも活用した教員の業務の整理（タスクシフト）
- 強いリーダーシップによる、教員の働き方改革と業務のスクラップ&ビルド
- 給特法改正：実額を支払うことで残業を見える化し、削減を動機付け

(2)教員の研修機会の充実

- 教員自身に探究活動の経験がない中での、スキルを含めた教員研修の充実
- 研修等に民間の知見も積極的に活用

(3)生徒の「学び方改革」の一層の推進

- 生徒が探究に打ち込める余裕づくり

(4)高校の入口（中学校）との接続強化

- 中学校における探究的な学びの充実を
- 教育委員会は所管の垣根を越えた連携を

(5)高校の出口（大学等）との接続強化

- 心のエンジンの駆動を持続させ、伸ばし続ける入学者選抜の検討
- 高校での探究型学習から接続した、大学での教養教育の充実

4. 主体的に考え未来を創る人材の育成を

- 本財団が持つ企業人としての視点を踏まえ、大企業・中堅中小企業を包含する「企業」や、その経営者・従業員からなる「企業人」、個人の各種事業者を含む「社会人」等のステークホルダーと学校教育との関わりについて提言。

(1)企業や社会が求める人材と、探究型学習の意義

- 企業を取り巻く環境が多様化し、急速に変化し続ける中で、企業が求めているのは、**変化の波に柔軟に対応し、複雑化する課題を自分ごととして捉え、そのソリューションを提供することで新たな価値を生み出す人材。**
- 「企業が求める人材の変容」は、高校教育の現場で共有されていない。企業や一人ひとりの企業人にも**求める人材像について教育現場に発信する努力**が求められる。
- 高校における探求型学習での経験は、企業や社会で活躍する力を養うことにつながる。

(2)学校現場が地域や社会に開かれた教育を

- 生徒が学校外の「本気の大人」や社会課題の「現場」に触れる機会の創出には相応の時間・労力を要し、一部の熱意ある教員が苦心する状況も。
- 学校は**学校外のリソースを適切に活用**し、時間を捻出し教育の質の向上に繋げることが重要。コーディネーター育成とネットワーク作りへの国の動きの拡大に期待。
- 教員が苦労を含めて実態を知ってもらう努力が、教員への適切なリスペクトに繋がり、自己効力感の高まりを通じて生徒の深い学びに還元される**好循環**に期待。
- 企業経験者の教員採用**の拡大が何故実績に結びついていないのか、一段の掘り下げが必要。社会人選考での免許取得期間猶予制度の全国への拡大推進を。

(3)日本の教育の変革のカギを握るステークホルダー

- 企業規模を問わず多くの企業や、企業人を含む社会人が、**教育や学校現場に関心を持つこと**が求められる。
- 地域の大人は、**学校現場や教育事業者の教育活動に積極的に参画**し、生徒の成果発表会等にも機会があれば積極的に参加する姿勢が望まれる。
- 企業人が教育現場に関わることは、自身の仕事の意義を問い直す等、学びの機会となり、企業にも得るもの大きい。こうした価値の言語化と発信が必要。

子どもたちの教育は「だれか」の課題ではなく、**社会全体の課題**
学校は地域に自らを開き、地域も学校に入っていくという**両輪での好循環を**
教員や生徒が学校外の協力者となつながら**プラットフォームづくりを推進**できるかが今後を左右する
「企業」「社会人」「保護者」。「教育に社会全体で取り組む」という姿勢で**マルチステークホルダーが連携を**

三菱みらい育成財団 研究レポート2023 「心のエンジンが駆動するとき」

～助成事業を通じた分析ならびに提言～ 概要版

【参考】15～20歳の若者の教育に係る提言（一覧）

- ・本提言は、助成事業を行い、現場に足を運び、プラットフォーム事業を通して実際に現場の声を聞くことで課題と認識した点を整理
- ・公教育を担う行政や学校にとどまらず、民間企業や教育事業者、そして保護者、世論等も含めたマルチステークホルダーに対し提言

	教育行政	高等学校	大学・ 教育事業者	企業・ 助成団体	保護者・ 社会人	
1.高校世代の教育に対する、資金面を含むリソース投入の充実	●			●	リソース投入、世論形成、保護者のマインドセット・意識改革によって全体を下支え	
2. 「心のエンジンの駆動」に関するグッドプラクティスの再現・横展開						
(1) 高校等における体制づくり		●				
(2) 「心のエンジンの駆動」に寄り添う効果的な財政支援	●			●		
(3) 学校外の重層的なプログラムの充実	●	●	●	●		
(4) セクターを跨いだ交流機会の創出	●	●	●	●		
3.高校での「心のエンジンの駆動」を加速するための基盤的環境の整備						
(1) 教員の働き方改革の推進	●	●				
(2) 生徒の「学び方改革」の一層の推進	●	●				
(3) 高校の入口（中学校）との接続強化	●					
(4) 高校の出口（大学等）との接続強化	●		●			
4.主体的に考え未来を創る人材の育成を						
(1) 企業や社会が求める人材と、探究型学習の意義				●		●
(2) 学校現場が地域や社会に開かれた教育を	●	●		●		
(3) 日本の教育の変革のカギを握るステークホルダー				●	●	

■【参考】プラットフォーム事業(1)

交流会

- ・カテゴリーを跨った助成先同士の交流の機会を年6回開催
- ・2023年2月には初めてリアル開催



シンポジウム

- ・パネルディスカッションに加え小グループでの対話も実施
- ・2023年3月にはリアル・オンライン併用で開催



ホームページでの発信

- ・財団ホームページにて助成先の取組みを紹介

カテゴリー-2 2022年採択

一般社団法人 アンカー

大学生による中高生のためのSDGs/サステナビリティアワード
(Sustainability Award for Students by Students: #SASS2022)

カテゴリー-2 2022年採択

株式会社 あしたの寺子屋

地域の新たなイベントづくりに向けた伴走型教育プログラム
～コロナに打ち勝つ「理想のイベント」をつくろう!～

カテゴリー-1 2022年採択

鹿児島県立福山高等学校

現代版郷土教育による未来の人材育成プロジェクト
～地域で活躍できるクリエイター・インベーターの育成をめざして～

カテゴリー-1 2022年採択

鹿児島県立屋久島高等学校

探究活動を主体とした「屋久高(YAKKO)プロジェクト」
～地域愛を育み、自己肯定感を高める取組～

カテゴリー-1 2022年採択

宮崎県立宮崎南高等学校

産学官連携による都市型コミュニティ・スクールを目指して
～地域の次世代リーダーとして、地域に根差し、貢献できる人材の育成に資する産学官連携による人の地域循環教育～

カテゴリー-1 2022年採択

佐賀県立佐賀商業高等学校

本物を知り、伝統を守り、社会に貢献する
～産学官連携による人の地域循環教育～

セミナー「理系ブロッサム」

- ・理系進学を考える女子高校生と、三菱グループ女性社員との対話の機会(2022年8月 第1回開催。今年度も秋～年内に開催準備中)

オンラインセミナー「理系ブロッサム」

RIKEI BLOSSOM

開催レポート

【参考】プラットフォーム事業(2)

書籍

これまで3年間の活動を総括し、2023年3月書籍を発刊

社会が変わる

三菱グループの教育財団が本気で教育に取り組んで見えてきたこと

教育が変われば、社会が変わる



日本の初等・中等教育のレベルは高い。経済協力開発機構(OECD)による15歳の学力調査では、日本は今も数学、科学と世界トップクラスだ。ところが、日本経済の人材競争力をみると63カ国・地域中で41位(国際経営開発研究所IIMD調査)まで落ちてしまっ。なぜか。本書では、15歳から20歳の10代後半の教育機会に空白があると指摘。三菱グループが取り組む全国レベルでの教育改革を詳述している。高校や大学、NPOといった多様な教育改革の現場例が紹介

三菱が切り込む「学びの空白」

されている。説くのは、子供自ら関心を持った事柄を主体的に突き詰めていく「探究型学習」の大事さだ。生涯にわたって学習し続けることが人材競争力の源泉。それには10代後半で学ぶことの楽しさに気づく必要があるという。豊かな才能があるがゆえに孤立してしまう「浮きこぼれ」にも目を向ける。教育現場の平等主義への挑戦でもある。本書では、どことなく堅いイメージのある三菱グループが、なぜ10代後半の教育改革に注力するのかも説明している。150年超の歴史がある三菱は、まさに国の栄枯盛衰と一体となって動いてきた。国力低下はグループの死活問題であり、平野信行・三菱UFJフィナンシャル・グループ前会長らが運動にまい進していく姿も映している。(KADOKAWA・1540円)

※日本経済新聞 2023/4/15 朝刊

なぜ、三菱が教育に取り組むのか？

日本の教育の未来はどうなる？

- ◆ 高校では「探究の授業」が主体性を育む柱になっている
- ◆ 大学1・2年で「リベラルアーツ」をしっかり学ぶ
- ◆ 教育事業者・NPOなど「学校外の組織」の活動が重要になっている
- ◆ 教育を変えるためには「大人」自身が変わる必要がある
- ◆ 「天才」を伸ばして、インバーターを生む必要がある

三菱グループの教育財団が取り組む、日本の教育を変える活動に迫った、「教育の今」と「教育のこれから」を伝える。学校・大学・教育事業者・保護者・企業が、50年後の日本のためにできることがわかる！

<p>建築家 隈研吾氏 推薦</p> <p>子どもたちを コンクリートの箱に 閉じ込めてはいけない</p>	<p>株式会社DeNA 代表取締役会長 南場智子氏 推薦</p> <p>日本を救うのは エリートじゃない 夢中を手放さない心だ</p>
<p>株式会社ファーストリテイリング 代表取締役会長兼社長 柳井正氏 推薦</p> <p>「承知しました」と言う 大人になるな</p>	<p>メルカリCEO 山田進太郎氏 推薦</p> <p>子どもの未来への 三菱の本気</p>

教育が変われば、社会が変わる

三菱グループの教育財団が本気で教育に取り組んで見えてきたこと
構成 崎谷実穂 監修 一般財団法人三菱みらい育成財団

誰もが主役
「場」をつくる
「普通」な子の
目が輝く

「心のエンジン」の駆動が未来を切りひらく

KADOKAWA

